

援助がなされないならば、「不登校」に陥ることが予測される。

#### (7) 二次予防仮説

学校と家庭がS子に対して温かく、思いやりのあるはたらきかけをし、情緒の安定を図る。

○S子に責任を持たせ、進んで係の仕事ができるような場を与え、成し遂げた喜びや学級での存在感を持たせる。また、折りにふれて、認めたりほめたりしながら自信をつけさせる。さらに、良い人間関係ができるよう、席替えなどにも配慮する。○母親の協力によって、食事の不規則さや家庭学習環境の乱れを改善していくとともに、手伝いなどを通して家族の一員としてのS子の自覚を深めさせる。

○母親と担任との信頼関係を深めながら、本人のよいところ、がんばっているところをさまざまな機会に認め、話し合うことによって、学校と家庭の両面から指導援助していく。

#### (8) 経過 II

##### 母親の気づきと転職

6月12日、兄の死以来、S子はどこか活気が感じられなかった。家庭での生活の様子が気になり、母親を訪ねた。

担任「最近、S子さん、お家でいかがですか？」

母親「ええ、だいぶ落ち着いて来ました。私も、ようやく息子の葬式も終わって、ほっとしています。」

担任「本当に大変でしたね。」

母親「先生、実は私、息子の死以来、ずっと店を休んでいたんですが、これを機会に仕事を変えようと考えたんです。S子にも、ずいぶん、寂しい思いをさせました。死んだ息子のためにも、せめて、次男とS子を立派に育てようと思うんです。」

担任は、母親の気持ちに共感し、これからのS子へのかかわりを話し合った。規則正しい生活、手伝い、そして勉強していくために・・・

『少しずつ努力していくことが、やがて、大きな自信になる。』と話す中、母親はうなずいた。

この時の母親の子どもたちへの気づきが、S子

の健康的な生活を築いていくきっかけとなった。2週間後、母親は夜の勤務から内職へと職を変えた。

##### 席替えによる配慮

6月22日、ソシオメトリック・テストのデータをもとに席替えを行った。S子と相互選択しているE子とM子の近くにS子の席を置き、さらに、やさしいK男を隣の席にした。K男には「S子さんは嫌がらせを受けるようなので、きみと組むようにさせたのよ。きみは優しいし、学級のことをよく考えてくれる。S子さんをよろしくね。」と頼んだ。

##### 係活動に対する意欲

7月初め、児童会各種委員会があった。S子はE子と共に保健委員会に所属していた。

委員会での仕事が終わって、教室に戻ってきた。担任が「ごくろうさま」と声をかけると、E子とS子は担任のところに近づいて来て、話しかけた。E子「先生、このごろね、トイレトペーパーや手洗い場の使い方が、悪くなっているんです。」担任「そうなの。ぜひ、みんなにお話しなければいけないね。」

E子「はい、明日の朝、言っていていいですか。」

担任「お願いね。でも、守ってもらうための何かいい工夫はないかしら。」

S子「先生、ポスター作ってみようよ。」

担任「なるほど、それはいいアイデアね。」

S子にとって、係としての仕事にこのような意欲をみせたのは、初めてのことだった。

次の日の朝、S子は、家で描いてきたポスターをみんなの方に向けながら、「守ってもらいたいこと」を二つ話した。

周りから「そうよ。すぐくきたないんだ。」と、S子を支持する言葉が、たくさん聞かれた。S子は、責任を果たした満足感を味わっていた。

##### 親子のふれあい

夏休みに家庭訪問をすると、一学期はプールに入るのをいやがっていたS子が、母親に連れられて町のプールに行くようになってから、毎日、泳ぐようになっていた。S子の肌は真っ黒に日焼け